

令和元(平成 31)年度(2019年度)

自己点検・自己評価報告書

2020年8月

学校法人新潟高度情報学園

新潟高度情報専門学校



新潟高度情報専門学校は、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた人間性豊かな技術者および実務者を育成することを目的としている。その建学の精神に則り、適正な学校運営を推進していくため、自らの教育活動と学校運営において、社会のニーズを反映した目標の設定を行う。そして、その達成度や達成に向けた取り組みの適切さなどについての評価を行い、これを公表する。このことは学校としての組織的・継続的な改善を図ることや地域への貢献を果たすことに繋がる。

これからも地域に根差した特色のある魅力的な専門学校づくりを目指すとともに、地域におけるステークホルダーとの密接な関係および信頼関係を築いていくため、自己評価、学校関係者評価を行い、公表する。

以下、令和元(平成31)年度の自己点検・自己評価結果を記す。

○令和元(平成31)年度自己点検・己評価委員

氏名	役職・所属
小見 英晴	新潟高度情報専門学校 学校長
神田 優	新潟高度情報専門学校 学校長代理兼教務部長
亘 英一	新潟高度情報専門学校 教務部長代理
金子 貴之	新潟高度情報専門学校 教務課長
岩野 賢一	新潟高度情報専門学校 情報学科主任
樋口 直武	新潟高度情報専門学校 情報工学科主任
渡辺 繁樹	新潟高度情報専門学校 ゲーム学科主任
大黒 健一	新潟高度情報学園 学園管理部長
佐藤 昭大	新潟高度情報専門学校 入学広報主任

## 令和元(平成31)年度自己点検・自己評価

### 1. 学校の教育目標

学校教育法に基づき、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身につけた、人間性豊かな技術者及び、人材を育成する。

設立時の役員の理念を大切にしており、その精神は現在も引き継がれている。

また、最新技術の習得にも力を入れ、地元の新潟はもとより、これからの日本の情報技術の発展に寄与できる人材育成を目的としている。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・職業実践教育を強化するため、産学連携、地域連携およびカリキュラムの充実を図る。
- ・学校理念・教育方針を再確認し、学校の新たな魅力作りを進め質の高い学生を輩出する。
- ・学習環境の充実・強化を図る。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育その他の教育指導などの特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズなどを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者などに 周知されている	④ 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科などに対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

#### ①課題

- ・社会環境・変革に合わせ、魅力的な学習内容の改善・カリキュラムの見直しを行うための情報収集を行う必要がある。

#### ②今後の改善方策

- ・学生が卒業後の社会環境で活躍できるよう、カリキュラム内容の充実やトレンドの確認、新技術の修得を目指す。加えて、新学科の設置も意識しつつ新潟高度情報専門学校の魅力に繋げるための研鑽を行う。

#### ③特記事項

[

## (1) 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)</p>	
<p>理念・目的は学則に明記しており、育成人材像は学生マニュアルでさらに分かりやすく表現してある。これらの内容を周知徹底し、教職員・学生とも共有することで、目標とする教育を実践している。</p>	4
<p>・学校における職業教育その他の教育指導などの特色は何か</p>	
<p>人間教育(道義礼節を兼ね備えた技術者の育成)、資格取得、担任制、精神的な自律と技術者として自立できる学生の育成を特色として掲げている。そして、情報の技術進歩に合わせ、トレンド・技術をカリキュラムに反映させるために産学連携を推進し、企業連携の充実を図るため、各分野の業界団体に参加し情報収集に務めている。</p>	4
<p>・社会経済のニーズなどを踏まえた学校の将来構想を抱いているか</p>	
<p>産学連携事業を通して社会ニーズの把握と新潟高度の名前にふさわしい優秀な人材の輩出を目指し、社会に貢献できる学校を目指している。教員は、先進的な技術を自らの講座などに活用し、カリキュラムに落とし込むことが必要である。</p> <p>業界の実情を踏まえ、5年、10年先よりは、学生が卒業した2～4年後を目安に、基本となるプログラミング技術の習得を重視した指導方針で育成している。社会で必要とされる知識や、開発ツールに拘らず、実際に役に立つ事柄に重点を置き、教授している。</p>	4
<p>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者などに周知されているか</p>	
<p>学生マニュアルに記載しており、ホームページやパンフレットなどへも掲載し、広く周知している。また、保護者学校説明会で配布する資料の中にその内容を用意し、保護者へも周知している。</p>	4

<p>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科などに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</p>	
<p>必要とされる人材像を業界毎に検討し、見直しを行っている。業界動向とニーズを把握するため、関連企業との連携強化を図り、関連企業との連携授業を開始した。授業内容への落とし込み、社会ニーズに直結する履修内容となるよう改訂を続けている。</p>	<p>4</p>

## (2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的などに沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化されているか、 また、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規程などは整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・地域社会などに対して学生が交流できる体制が準備されているか	④ 3 2 1
・教育活動などに関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

## ① 課題

特になし

## ② 今後の改善方策

## ③ 特記事項

## (2) 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 目的などに沿った運営方針が策定されているか	
<p>全体会を通じて年度当初に研修を実施している。学生マニュアル・教員マニュアルを整備し、運営方針を定めている。</p> <p>職業実践専門課程・企業連携を効果的に実施するための運営についても検討している。</p>	4
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
<p>策定された事業計画に基づき、人材育成並びに資格取得・就職内定目標を達成できるよう教職員が努力している。</p> <p>学生の確保に繋がるよう、高校生や将来を考える小中学生へも情報技術の必要性を広く知ってもらい、情報処理に興味を持ってもらう機会を提供するなど、様々な取り組みを行っている。</p>	4
・ 運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化されているか、また、有効に機能しているか	
<p>組織、意思決定に問題はない。グループウェアを有効活用し、決済の迅速化を図っている。事務職員の担当業務の増加により事務分掌の見直しを進めている。</p>	4
・ 人事、給与に関する規程などは整備されているか	
<p>就業規則及び給与規程などにより整備されている。人事考課は学校の経営成績を勘案し、各自の業務実績を上長が評価することにより行っている。</p>	4
・ 教務・財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか	
<p>グループウェアが導入されており、各役職での決済、承認権限が規定されている。教務では教務課会、出欠席管理委員会、進級・卒業認定会議などがある。また、財務では全体会や経営会議などで意思決定が確認できるようになっており、理事会、評議員会で内容も承認されている。</p>	4



<p>・地域社会などに対して学生が交流できる体制が準備されているか</p>	
<p>対外活動(エール活動など)により、地域に根差した活動を行っている。産学連携の強化により、学生が学外に出て学習する機会も多くなってきている。徐々にではあるが、企業との繋がりも広がり、携わるテーマも多様になっているため、学生にとっても興味深い内容になっている。また、IoTや専門分野の能力を伸ばすゼミも実施しており、効果がでている。</p>	4
<p>・教育活動などに関する情報公開が適切になされているか</p>	
<p>学校行事や産学連携及び対外活動(エール活動など)の活動範囲も広がってきている。ホームページやSNSを通して教育活動などの紹介をしている。</p>	4
<p>・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか</p>	
<p>学内システムによる業務の効率化を図るため、自前の成績管理システム、出欠席管理システム、予算管理システムなどを運用し、グループウェアの導入により情報共有や迅速な意思決定も行っている。現在は学生募集、教務、就職が別のシステムとなっているため、一元管理できるシステムの導入・構築を検討中である。</p> <p>学生においても学生用グループウェア(desknet's)の活用が定着し、諸連絡をはじめ授業や就職活動での利用が活発になった。また、新たにクラウドコンテンツ管理・ファイル共有サービスBOXを活用することで、学生・教職員間での新たな情報共有、課題配布・提出などが実現されている。自宅からでも課題提出ができるため、コミュニケーション手段としての活用が広まっている。</p>	4

## (3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	工学	情報	ゲーム	デジ
・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか	4	4	3	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	4	4
・学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか	2	4	4	3
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4	4	4
・関連分野の企業・関係施設などや業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか	4	4	4	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ実技・実習など)が体系的に位置づけられているか	4	4	3	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4	4	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4	4	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	4	4
・資格取得などに関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4	4	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	4	4
・関連分野における業界などとの連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4	3	4
・関連分野における先端的な知識・技能などを修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	4	4	3
・職員の能力開発のための研修などが行われているか	3	3	3	3

## ①課題

## [情報工学科]

- ・学生が、より自主的にITの研究及び製作、各種大会やイベントへの積極的に参加できる環境を用意する必要がある。
- ・大学課題レポートの合格率はかなり向上したが、科目修得試験による単位取得率は小幅な上昇に留まっている。

## [高度情報システム／情報システム科]

- ・職業教育に関する教科目・研究機材などの質を充実させる。
- ・教育連携校カリキュラムの効果的な連携を強化する。
- ・教員の専門分野における専門性・質の向上とスキルアップを行う。
- ・学生及びクラス数に応じた教員の確保を行う。

## [CG・ゲームクリエイター科、CG・ゲーム開発科]

- ・教員の技術研究時間の確保が不足している。

## [デジタルクリエイティブ科]

- ・人的問題から独立したカリキュラムが構築できていない。

## ②今後の改善方策

## [情報工学科]

- ・カリキュラムの再度見直しを行う。（情報系学科との関連をより強める）

## [高度情報システム／情報システム科]

- ・当校カリキュラムと教育連携校カリキュラムの方向性や強み、効果など、カリキュラムの改善を図り、当校の特色するため検証を継続する。
- ・教員のスキルアップのため外部研修への参加、内部研修の実施を行う。

## [CG・ゲームクリエイター科、CG・ゲーム開発科]

- ・業務やカリキュラムの見直しなどによる教員の研究時間の確保を行う。

## [デジタルクリエイティブ科]

- ・業務やカリキュラムの見直し等による教員の技術修得時間の確保を行う。

## ③ 特記事項

- ・現状の大学連携型では入学希望者数、単位取得の改善が難しいため、令和2年度入学生より帝京大学との教育連携を解消する。（情報工学科）
- ・就職指導の強化、就職先企業との関係を強化する。（高度情報システム／情報システム科）
- ・令和3年度入学生から募集を停止する。（デジタルクリエイティブ科）

## 学科：情報工学科[帝京大学併修]

## (3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか	
<p>教育理念に則り、資格取得、自分で調べる力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション力の向上など総合的な人間力の向上を目指した教育課程を編成している。さらに、技術と実践を兼ね備えた当校の教育と、教育連携校帝京大学の知識、研究の教育があり、どちらも満たせる教育課程の編成を策定、実施している。</p>	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
<p>社会のニーズに合わせ、学士取得・技術者養成を柱として、社会の求める人材育成のためのカリキュラム内容の検討を重ねている。また、学生へは学校および情報工学科の教育方針を学生マニュアルに明示し、入学時にカリキュラム、コマシラバスと共に説明することにより、教育到達レベルおよび学習時間を明確にしている。</p> <p>職業教育を授業に反映することにより、履修内容の充実を図っている。</p>	4
・学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか	
<p>技術習得・資格取得に合わせたカリキュラムであるが、学士を取得するために編成された内容となっている。学校運営上情報系学科に合わせ、IT関連技術の習得や資格取得に対して十分な時間を割く一方、大学科目の学習内容を理解し、目的に向けた単位を着実に取得できる体系的カリキュラムとは言い難い。</p> <p>学科の教育の柱は、システム構築・組込技術・ヒューマンスキル・英語教育そして大学科目修学の5つであるが、帝京大学との教育連携であるため、帝京大学のカリキュラム改革による影響を受けやすい。</p>	2

<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>	
<p>科目全般にアクティブラーニング手法を取り入れている。また社会性やヒューマンスキル(自律性、主体性、創造性、改善力、コミュニケーション力)向上のため、産学連携に基づく実践的科目を導入し、科目としてのキャリア教育の他、個々の状況に応じたキャリアサポートの強化を図るなど、きめ細かなサポート体制を整えている。また、多様な技術動向や学生の研究目的に対応できる機器・機材・書籍などの購入計画を行い、授業への取り込みを強化している。</p>	4
<p>・関連分野の企業・関係施設などや業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか</p>	
<p>帝京大学のカリキュラム改革に合わせて、毎年見直しが生じている。帝京大学では専門科目だけでなく法学や心理学、スポーツ科学などの教養科目を履修させることで、専門分野に偏らない幅広い知識の人材育成を狙いとしている。基礎・教養科目が新設される一方で、専門科目の統廃合も目立つため、当校の情報工学科としての特色を見失うことのないよう教育連携先の改定にも柔軟に対応している。</p> <p>教育課程編成委員会に参画いただいている関連分野の企業、および業界団体と連携し、コマ数16以上の産学実務研修という科目を取り入れている。実施後は結果に対する意見をいただき、これからの技術動向をも踏まえたカリキュラムの見直しおよび改定を行っている。</p>	4
<p>・関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習など）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>ヒューマンスキルの向上に特化した実践的科目「アクティブラーニング」から、「産学実務研修」という新たな科目に変更してから3年が経過した。年々企業からの学生評価も高くなり、就職先も大手企業から内定をいただく学生も多くなってきた。</p>	4
<p>・授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>半期毎に学生への授業理解度アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることにより、学生の理解度および改善点を把握するとともに、学生の満足度の向上に努めている。アンケート結果に問題があれば担当者にヒアリングを行い、教務課長・学科主任などの上長との意見交換を通して、その後の担当授業の改善を行っている。</p>	4

<p>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>教育課程編成委員会で外部関係者の方々から、職業教育に関する評価・アドバイスを頂いている。今後は定期的な授業評価としてカリキュラムや学生指導のほか、ボランティア活動など、校外活動におけるさまざまな場面での協力関係を築き、学生がいろいろな立場の方々から有益なアドバイスをいただけるように活動の幅を広げている。</p>	4
<p>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>評価や認定の基準を明確にしている。具体的には、期末試験や課題に重点を置き、平素の授業態度、確認テスト、授業出席率、課題提出状況による総合点により評価を行い、進級および卒業を認定している。</p>	4
<p>・資格取得などに関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>情報系の主要目標検定である情報処理国家試験は、入学後1年目で基本情報技術者試験(以下基本情報)を受験している。その後、不合格者へは午前免除試験(基本情報)を受験させてから次の試験に向かわせている。また、合格者へは上級試験の応用情報技術者試験へと導いている。このように、段階的に受験・取得できるカリキュラム構成となっており、基本情報は在籍取得率も7割以上を達成している。</p> <p>昨年度より、3年次の春期までは、情報系学科と連動させたカリキュラムで国家試験対策を実施し、より高い資格取得率を目指せるようにしている。しかしながら、帝京大学の科目修得試験と時期が重なることがあり、その調整は、教員が放課後などを利用して対応しているのが実情であり、学生とともに負担も大きくなってきているという問題点も顕在化している。</p> <p>英語科目は1年次から3年次までの全期にあり、英語力の検定であるTOEICについては2年次と3年次に2回受験を行っており、大学生の平均点を上回る成績を残している。</p> <p>文法中心ではなくコミュニケーション英語から行うため、英語が嫌いな学生でも成績は向上している。両試験とも合格率アップのため、受験者一人ひとりに丁寧なサポートと指導を行っている。</p>	4

<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>客観的な評価尺度として情報系教員全員が情報系国家資格を取得しており、実務経験のある教員も確保している。また、学生の人間力向上のための教育手法と指導ができる教員の育成に力を入れている。教員個々の専門分野に関するスキルアップだけでなく、教育手法の研究や指導力そのものの向上も強化していきたい。</p>	4
<p>・関連分野における業界などとの連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>教育課程編成委員会、および学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者との交流を深め、カリキュラム作成をはじめ、授業協力などの関係を築くことにより実現している。</p>	4
<p>・関連分野における先端的な知識・技能などを修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p>	
<p>近年は特にIoTや新技術、教育法に関するセミナーに数多く参加することにより、知識や技術、最新の動向などにも積極的に目を向けている。教員の教授力については授業アンケートを活用し内部評価・指導を行っており、新入社員・中堅社員においては外部研修に参加させることにより教授力の向上を図っている。</p>	4
<p>・職員の能力開発のための研修などが行われているか</p>	
<p>学科専任の職員は配置されていないが、業務知識習得のため、外部での研修に参加させている。内部では授業の進め方についての意見交換を行うことにより、それに関連した内容や教育法についても日々改善を図っている。学生数の増加に伴いクラス運営を中心に注力したが、今後は外部研修会などへの参加も増やしていきたい。</p>	3

## 学科：高度情報システム/情報システム科

## (3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか</p> <p>教育理念に基づき、知識・技術だけでなく、人格度をも高く評価される人材を育成できる教育課程の編成を行っている。その上で、資格取得、自分で調べる能力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション能力の向上、指導教員を超える学生の輩出ができるよう親身な指導とサポートを実施している。</p>	4
<p>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p> <p>IT業界の技術動向や世の中のニーズに合わせた資格取得、技術者の養成に努め、社会の求める人材育成のためのカリキュラム検討を重ねている。各科目のコマシラバスおよび履修計画・内容を作成し、その中に教育到達レベルおよび学習時間を明記し、学生に提示している。確認テスト、実習課題などを小まめに実施してクリアさせることで、一定の教育到達レベルを担保している。また、2年制課程、3年制課程ともに、修業年限に応じた教育成果の集大成として卒業年次の後期に卒業研究科目を設けている。</p>	4
<p>・学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>技術動向や社会ニーズをカリキュラムに取り入れるために毎年見直しを図り、資格取得とキャリア教育を柱としたカリキュラムを構築している。また、教育方針に則った目指すべき人材像となれるよう、各学科とも入学から卒業までの課程で体系的に編成している。教育課程編成委員会で聴取した業界団体などの意見も取り入れた実践的なカリキュラムになっている。</p>	4
<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p> <p>入学時より就職に対する意識付けを行い、就職前年度、就職年度に「キャリアデザイン」、「ビジネスマナー」を実施している。各分野の企業による講演など、授業内外において就職支援を行う環境を整えている。日常的な学校生活においても学生・教員間の礼儀作法をはじめ、報告、連絡、相談などの社会人に必要な要素が自然と身に付くような指導を行っている。</p>	4



<p>・ 関連分野の企業・関係施設などや業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか</p>	
<p>関連分野の企業及び業界団体の方に参画していただき、年2回「教育課程編成委員会」を実施している。カリキュラムや実施方法について意見を頂き、その結果とこれからの技術動向を勘案した見直しと改善を行い、次年度のカリキュラムへ反映させている。</p>	4
<p>・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習など）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>関連分野企業の非常勤講師に授業を依頼し、実践的な教育指導と評価を頂いている。授業内で企業インターンシップ可能な科目を取り入れ、現場の技術者から直接指導を受ける体制を整えている。また、地域の方を対象とした公共施設による活動も行っている。今後も積極的に外部との連携を推進し、より実践的な教育を目指したい。</p>	4
<p>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>半期毎に学生への授業理解度アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることにより、学生の理解度や改善点を把握するとともに、学生の満足度の向上に努めている。アンケート結果に問題があれば担当者にヒアリングを行い、教務課長・学科主任などの上長との意見交換、見直しを通して、その後の担当授業の改善を図っている。</p>	4
<p>・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>卒業研究科目において教育連携企業に協力を依頼して、定期的に学生の制作物に対するレビューや、専門的なアドバイスをいただいている。厳しい意見もあったが、学生にとっては良い刺激となり、制作物の品質向上に役立っている。今後はさらに企業連携を深め、より実践的な職業教育を実施していきたい。</p>	4
<p>・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>期末試験、確認テスト、レポート課題、制作物、授業態度、出欠席を用いた総合評価制度を導入している。授業の取り組みによってはグループワークもあり、指導教員の主観による評価付けにならないよう、総合的な評価項目を作成し、公平な評価基準となるように検討を重ねている。</p>	4

<p>・資格取得などに関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>情報系の主要目標検定である情報処理国家試験は、入学後半年で基本情報技術者試験(以下基本情報)を受験している。その後、不合格者へは午前免除試験(基本情報)を受験させてから次の試験に向かわせている。また、合格者へは上級試験の応用情報技術者試験へと導いている。このように、段階的に受験・取得できるカリキュラム構成となっている。</p> <p>合格者を多数輩出するため、試験日の約1か月前より対策授業を行い、合格をサポートしている。</p>	4
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>客観的な評価尺度としては情報系教員全員が情報系国家資格を取得している。更に新しい技術カリキュラムに取り入れていくため、外部研修や内部研修を通して継続的な教員のスキルアップ向上も図っている。</p> <p>学生数およびクラス数の増加により、対応できる教員を確保する必要がある。</p>	3
<p>・関連分野における業界などとの連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>教育課程編成委員会、および学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者との交流を深め、カリキュラム作成をはじめ、授業協力などの関係を築くことにより実現している。</p>	4
<p>・関連分野における先端的な知識・技能などを修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p>	
<p>情報分野における先進的な知識や技能などの修得に関しては、積極的に外部研修やセミナーや展示会などに参加させ、教員の知識・技能などの向上を図っている。学生へ授業アンケートを実施し、客観的な内部の評価・指導情報を基に指導力の向上を図っている。また、新入社員・中堅社員においては外部研修に参加させることにより指導力の強化を図っている。</p>	4
<p>・職員の能力開発のための研修などが行われているか</p>	
<p>学科専任の職員は配置されていないが、外部の研修への積極的な参加を奨励し、新しい業務知識の習得に努めている。学生数の増加に伴いクラス運営を中心に注力したが、今後は外部研修会などへの参加も増やしていきたい。</p>	3

## 学科：CG・ゲームクリエイター科／CG・ゲーム開発科

## (3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか</p> <p>教育理念に基づき、業界で活躍できる技術者育成を行っている。クリエイティブ業界では取得資格に対する評価よりも、技術力の評価が圧倒的に高いことから、実践的なカリキュラムにより、ツールに頼らない真の技術力を修得させる教育課程としており、その過程で目標に向かって自ら学べる人材を育成している。</p>	3
<p>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p> <p>ゲーム開発の全工程を演習課題とし、プロジェクトの進捗を評価することで、業務に対応できるスキルを身に着けた人材を育成している。</p> <p>同様に演習に取り組む学生全体の進捗を把握することで、目標とする教育の到達レベルと学習時間の過不足を判断し、カリキュラム構成時の学習時間配分に適応させている。</p>	4
<p>・学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>各種コンテストへの応募を通して、納期の厳守と作品公開を目的としたデジタルコンテンツの開発フローを体系的に演習し、就職活動時にCG・ゲーム業界に向けた作品応募ができる人材の育成を行っている。</p>	4
<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p> <p>各種開発ツールのオペレーションを単独で学習するだけでなく、制作工程によって複数のツールを目的に応じて使い分ける演習を行うことで、複数のツールの関係性を理解し、用途に合わせた正しいツールの選択、使い分けができる人材を育成している。</p> <p>一方で、高機能化するツールに依存せず、エンジニア・デザイナーの根幹となるローテクな技術についても十分な指導を行っている。</p>	4

<p>・関連分野の企業・関係施設などや業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか</p>	
<p>一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会（CESA）に加盟し、東京ゲームショウへの出展を通して、ゲーム関連企業との関係性を深めている。また、教育課程編成委員やOBが在籍する企業よりアドバイスを受け、カリキュラムの作成・見直しなどを行っている。</p>	4
<p>・関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習など）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>ゲーム開発関連企業による就職セミナーや新潟市内のゲーム開発会社による授業を実施している。ゲーム関連企業は首都圏に集中しているため、新潟以外の企業開拓を推進することと、今後は双方向のライブ配信環境を利用するなど、遠方から企業が来校することなく職業教育を実施できる体制を整えたい。</p>	3
<p>・授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>各学期末に授業アンケートを実施している。評価内容に目立った問題点などがあれば学科主任、教務課長より聞き取り調査が行われ、内容に応じた是正を即している。</p>	4
<p>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>ゲーム業界で働く卒業生と所属企業を中心にアドバイスを受けている。特に卒業生からは、開発業務を行う上で履修内容がどのように活かされているか、在学期間中に学んでおくべき技術は何かなどを聞き取り、学生指導に反映させている。</p>	4
<p>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>評価や認定の基準は全学科で共通となっている。単位認定基準に則り、作品の品質に対する評価は、演習レポートを加味したうえで、担当箇所の難易度、制作時間および作業量などを実際の業務との関連を重視した総合的な評価を行っている。</p>	4
<p>・資格取得などに関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>検定取得時期に過去問題を元にした検定対策授業を行っている。また、コンテスト参加では、企画立案から制作スケジュール管理および技術指導、プレゼンテーション資料作成指導などのサポートや支援を行っている。</p>	4

<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>ゲーム開発に用いる技術の進歩やニーズが変化する中で、業界研究や技術研究を行うことにより要件を備える努力をしている。また、学生一人ひとりと向き合うことで毎年卒業生をゲーム業界へ輩出している。業務との兼ね合いで研究時間が思うように取れない実情があるため、業務改善などによる研究時間の確保が要求される。</p>	4
<p>・関連分野における業界などとの連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>ゲーム開発経験者は根本的に数が少なく、兼務であっても確保が難しい現状にある。今年度もOBへの声掛けやハローワークなどでの求人活動を行ったが応募がなかった。これからも引き続き確保に努めたい。</p>	3
<p>・関連分野における先端的な知識・技能などを修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p>	
<p>毎年、ゲーム開発者向けカンファレンス(技術交流会)「CEDEC」へ参加するなど先端的な知識を習得しているが、技能関係は外部研修の機会が少ない。しかしながら近年は、ゲーム開発をはじめとするクリエイティブ系のe-learning教材が充実し、整ってきているため、今後はそれらの活用を検討したい。</p>	4
<p>・職員の能力開発のための研修などが行われているか</p>	
<p>内部での研修は行っていないが、経理や広報など各部署において必要とされる業務知識修得のための外部研修への参加を推奨している。</p>	3

## 学科：デジタルクリエイティブ科

## (3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか</p> <p>教育理念に基づき、業界で活躍できる技術者育成を行っている。クリエイティブ業界では取得資格に対する評価よりも、技術力の評価が圧倒的に高いことから、実践的なカリキュラムにより、ツールに頼らない真の技術力を修得させる教育課程としており、その過程で目標に向かって自ら学ぶ人材を育成する。</p>	4
<p>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p> <p>コンテンツをリリースするまでの工程を演習課題とし、プロジェクトの進捗を評価することで、業務に対応できるスキルを身に着けた人材を育成している。</p> <p>同様に演習に取り組む学生全体の進捗を把握することで、教育到達レベルと学習時間の過不足を判断し、カリキュラム構成時の学習時間配分に適応している。</p>	4
<p>・学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>1年次はCGの基礎学習や各種アプリケーションソフトウェアのオペレーション修得が中心となるため、大部分がゲーム系CGコースと共通カリキュラムとなっている。2年次は各コース（グラフィックデザインやCG・映像）に向けた科目でカリキュラムを構築して、就職に向けた技術修得を行う。</p>	3
<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p> <p>各種クリエイティブツールのオペレーションを単独で学習するだけでなく、制作工程によって複数のツールを目的に応じて使い分ける演習を行うことで、複数のツールの関係性を理解し、用途に合わせた正しいツールの選択、使い分けができる人材を育成している。</p> <p>個人作品制作における企画指導の際、成果物が、社会でどのように消費されるのか、具体的なターゲット・利用環境（プラットフォーム）などを、既存の製品と比較したうえで立案させ、製品としてのデジタルコンテンツを制作する思考力を高める指導を行っている。</p>	4

<p>・ 関連分野の企業・関係施設などや業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか</p>	
<p>グループ企業にWeb系企業があり、カリキュラム構築の見直しを行えるが、人的な問題から学科運営に反映できない状況にある。</p>	3
<p>・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習など）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>グループ企業との連携を体系的に行うための準備を進めており、次年度のカリキュラムに導入する見込みが立った。</p>	3
<p>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>各学期末に授業アンケートを実施している。評価内容に目立った点があれば学科主任、教務課長より聞き取り調査が行われ是正を即している。</p>	4
<p>・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>業界で働く非常勤講師やOBからのアドバイスや評価を取り入れている。</p>	4
<p>・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>評価や認定の基本は全学科で共通となっている。単位認定基準は明確だが、作品の品質に対する評価は、演習レポートを加味したうえで、担当箇所の難易度、制作時間および作業量など業務として取り組んだ際の総合的な評価を行う。</p>	4
<p>・ 資格取得などに関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>検定取得時期に過去問題を元にした検定対策授業を行っている。コンテスト参加について、企画立案から制作スケジュール管理および技術指導、プレゼンテーション資料作成指導などのサポートを行っている。</p>	4
<p>・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>デジタルコンテンツ開発に用いる技術の進歩やニーズが変化する中で、業界研究や技術研究を行っている。業務との兼ね合いで研究時間が思うように取れない時期もあるため、一年を通して安定した研究時間が確保できるように進めたい。</p>	4

<p>・ 関連分野における業界などとの連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>デザイン、映像系の企業は新潟市内に多数あり、付き合いのある企業・クリエイターも多いため、必要に応じて確保することができる。</p>	4
<p>・ 関連分野における先端的な知識・技能などを修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p>	
<p>技能関係は外部研修の機会が少なく、各自の研鑽が中心となっている。クリエイティブ系のe-learningが充実してきたため、今後はそれらの活用を検討したい。</p>	3
<p>・ 職員の能力開発のための研修などが行われているか</p>	
<p>学科専任の研究職員は配置されていないが、教員がオープンキャンパス開催やイベント運営時に、参加者を対象としたデジタルコンテンツの作成・運用を行うことで、各種メディアの利用やデジタル機器の活用を検討する機会を設けている。学校として外部での研修に参加、業務知識修得のため研修に参加している。</p>	3



## (4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	工学	情報	ゲーム	デジ
・就職率の向上が図られているか	4	4	2	3
・資格取得率の向上が図られているか	4	2	4	3
・退学率の低減が図られているか	4	3	2	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4	4	4	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	4	—

## ① 課題

[情報工学科]

- ・時代の変化に対応した学生とのコミュニケーションや学習指導の実施、および人間力育成のための指導内容に注力する。

[高度情報システム／情報システム科]

- ・学生増もあるが、資格指導が十分行き届かなかったため、厳しい取得結果となった。

[CG・ゲームクリエイター科／CG・ゲーム開発科]

- ・学生数の増加により学力差に幅が出たことで、チーム制作が難航した。

## ② 今後の改善方策

[情報工学科]

- ・モチベーションの維持・向上に役立つよう、学生に応じた対応を心がける。
- ・1年次は資格取得メインのカリキュラムに変更し、3～4年次で帝京大学卒業単位をより多く取得することを目指す。

[高度情報システム／情報システム科]

- ・対策期間以前から資格取得の動機づけ、維持及び向上を図るべく指導を行う。
- ・卒業生を含む企業との連携を強化して情報収集を強化する。

[CG・ゲームクリエイター科／CG・ゲーム開発科]

- ・チーム制作の企画では、チームのスキルや進捗状況をみて、問題があると判断した場合は、教員が主導しテーマ決めなどを行う。

## ③ 特記事項

- ・精神疾患や経済面に不安を抱えている入学生が増えている。

## 学科：情報工学科 [帝京大学併修]

## (4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
<p>学生数が少ないこともあり学生個々に対応できている。就職年次の学生に対しては、早めにフォローすることにより、卒業年次前期中での全員内定を目指している。昨年度から3年次後期に就職のための科目を設置し、より早い段階で学生が就職活動を意識、始動できるようになった。</p>	4
・資格取得率の向上が図られているか	
<p>カリキュラムとして段階的な取得を目指す体系づくりはされているが、時期によっては国家資格よりも学士単位の取得を優先せざるを得ない時期がある。昨年度からの試みとして、本来単位取得を優先してきた秋期国家試験の時期を、1～3年次は資格取得優先とした。その結果、合格者も輩出でき、その意味では試みは成功といえるが、逆に単位取得数の減少にもつながったため、その調整が必要である。学生の中にはヒューマンスキルの向上により自発的に動ける者もでてきた。</p>	4
・退学率の低減が図られているか	
<p>ドロップアウトが発生しないように、ガイダンスを通して学生の把握と指導を行っている。担任だけでなく学科・学校としての支援もできるよう、学生支援課を組織している。相互協力を行い、学生を注視することで退学への歯止めとしている。特に「なぜ情報工学科を選んだのか」「就職後の企業でどのように認められたいのか」など、入学当初の将来についての意識を再認識させ、今自分が行っているのは何のためなのかを自覚してもらうよう指導している。しかしながら、金銭面での不安を抱える学生(経済的に不安定な家庭)も増えており、こちらへの対応は難しい。</p>	4

<p>・ 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか</p>	
<p>在校生の活躍の状況については、学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示などにより、对外発信を行っている。卒業生の近況発信については企業の許可が必要な場合が多く、情報公開できないこともある。他学科と比較すると卒業生とのネットワークは密とは言えないが、近年は就職後に学校や担当教師を訪ねてくれる卒業生が増えてきている。このような動きを活用することにより、OB講演会や就業先の会社説明会などの開催や交流の機会を増やしていきたい。また、SNSなどによる情報収集や就職担当による企業からのヒアリングなどにより、卒業生の近況を把握するとともに、教員間で情報共有を行う必要がある。</p>	4
<p>・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p>	
<p>学科の目的の一つでもあるヒューマンスキルの向上は、卒業後の職場での人間形成にも生かされている。卒業生からの話を聞く機会も増え、「学生時代にこれをやってもらってよかった」、「これをもっとやっていた方が良かったですよ」、などという意見を耳にすることもある。今後は卒業生を含む企業との連携をより一層強化し、優れた教育活動が展開できるような情報収集を図り、在校生へ還元していきたい。</p>	4

## 学科：高度情報システム/情報システム科

## (4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
<p>現状は、担任および就職担当の2名体制であるが、学生個々に対応できている。内定時期が遅い学生がいるため、早期の全員内定を達成できるように対処したい。2年制課程では、入学から就職活動までの期間が短いため、意識付けや本人の就職活動準備と履修内容の理解が足りない学生が出ることもあり、担任・学科教員・就職担当と連携して指導を行っている。</p>	4
・資格取得率の向上が図られているか	
<p>主要検定受験前には対策授業を実施することで、取得率の向上を図っている。1年生からの目標検定や受験時期の変更に応じて対策を検討・実施している。情報システム科1年生の基本情報や2年生以上の応用情報で惜しい結果が多く見られた。学生数の増加もあるが、資格指導が十分行き届かなかつたため、厳しい取得結果となった。個々の学生への指導の徹底を継続し、結果に繋げていきたい。</p>	2
・退学率の低減が図られているか	
<p>ドロップアウトが発生ないように適宜ガイダンスを行い、個々の学生の状況把握と指導を行っている。保護者との連絡を密接にとり、学生状況を伝え、家庭でのサポートも依頼することで、学校と家庭の両面から学生をサポートしている。近年は経済的または疾病などの理由で、学習が継続できない学生が増えてきている。</p>	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
<p>在校生の活躍の状況についてはホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示などを通じて対外的に発信している。卒業生の近況発信については企業の許可が必要な場合が多く、情報公開できない部分もある。休暇を利用して来訪してくれるOB、企業の学校訪問やOB就職先へのアンケート依頼などで接触も増え、情報収集の機会も広がってきた。</p>	4

・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
職業実践専門課程を機に卒業生を含む企業との連携を強化して情報収集を行い、それらをフィードバックしてカリキュラムの改善・反映することで、優れた教育活動を行いたい。	3

## 学科：CG・ゲームクリエイター科／CG・ゲーム開発科

## (4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
就職専任講師が年度途中で離任したことによる影響もあり全員内定とならなかったが、内定者の6割以上をゲーム業界へ送り出すことができた。次年度は学生数の増加に伴い手厚いサポートが必要な2年制課程の人数も増えるため、全員内定に向けて学科全体での計画的な指導が求められる。	2
・資格取得率の向上が図られているか	
授業中の講義を中心に課題や答練を重ねて理解度を向上させている。1年生が受験する基礎学習の確認を目的とした検定では高い合格率を達成し、主催団体(CG-ARTS協会)より表彰された。2年生についても再受験を促し、全員取得とすることができた。	4
・退学率の低減が図られているか	
<p>学年・クラスを問わず授業内外で意識的に学生へ声をかけることで相談・指導が行いやすい信頼関係を築いている。</p> <p>退学率の高い1年生のクラス運営において、昨年度同様に放課後を利用してのゲームや遊びを通じたコミュニケーションを推奨している。クラスの雰囲気づくりは上手くいったが、自ら壁を作るタイプの学生が不登校から退学につながることも発生している。</p>	2
・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNSなどを通して情報交換が行われている。在校生についてはコンテストへの応募に伴う受賞結果が主な活躍の場となる。	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNSなどを通じて情報交換が行われている。学習内容が現場でどのように活かされているか、現場を経験して在学期間中に学んでおきたかった事などを聞き取り、シラバスなどに反映している。	4

## 学科：デジタルクリエイティブ科

## (4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
ゲーム業界と同様に作品提出が基本となる。新設学科のため初の卒業生輩出となるが、残念ながら全員内定とならなかった。	3
・資格取得率の向上が図られているか	
基礎学習の確認を目的として検定を受験しているため、高めの取得率だが、理解度の低い学生の底上げが不十分で、難易度の高い検定で取得率が伸びなかった。	3
・退学率の低減が図られているか	
<p>学年・クラスを問わず授業内外で意識的に学生へ声をかけることで相談・指導が行いやすい信頼関係を築いている。</p> <p>今年度は退学率の高い1年生のクラス運営において、放課後を利用してゲームや遊びを通じたコミュニケーションを推奨したことで、クラスの雰囲気づくりが上手くいき、退学者は出ていない。</p>	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
1期生が今春卒業のため卒業生の情報はないが、在校生についてはコンテストへの応募に伴う受賞結果が主な活躍の場となる。	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
1期生が今春卒業のため効果測定は不能である。	—

## (5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1
・学外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	(4) 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	(4) 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	(4) 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 (3) 2 1

## ① 課題

- ・就職専任担当の補充を検討する必要がある。
- ・卒業生の情報収集・情報提供を強化していく必要がある。
- ・学外活動の幅が広がってきており、学生や対応について検討の必要性がある。

## ② 今後の改善方策

- ・就職支援授業「キャリアデザイン」、外部講師やOBによる講演の効果的活用を図る。
- ・同窓会名簿のメンテナンスを行う。
- ・学外活動へ参加する学生へのさらなる指導教育サポートを拡充する。

## ③ 特記事項

[



## (5) 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p>	
<p>就業意欲が低く、就職活動に消極的な学生への対応として、就職担当による授業や個別指導を強化している。クラス担任、就職担当、学生の三者で連携を取り、就職活動の内容を確認し、個々に指導を行うことで、早期内定に結びつけている。近年、就職意欲の低い学生も増えている様子もうかがえる。そのため、就職活動においての方向転換や学生の精神的な安定を図ることも重要となってきた。支援体制の強化に向け人員補充も検討の一つである。</p> <p>保護者の影響力は高いので、連絡を密にとり、方向性の差異が発生しないよう努めている。</p>	3
<p>・学生相談に関する体制は整備されているか</p>	
<p>クラス担任制により担任が学生とのコミュニケーションを図りながら指導する体制を重視している。近年はSNSによるコミュニケーションも利用しており、気軽に相談できる体制を作っている。さまざまな学生の相談・問題に対応できるよう、担任力の向上が必要であるが、カウンセラーなどの協力体制も検討する必要がある。</p>	3
<p>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p>	
<p>優秀な学生を入学させ、技術を身に付けて社会に輩出することは重要な使命と考えている。入学時の各種学費免除制度や在校生向けの学内優待生制度、学費分納制度などを充実させ、年間の諸経費についても可能な限り削減を行っているが、学費を納入できないケースや奨学金を借り入れても生活費に充ててしまい、学費に充当できない問題も発生している。高等教育の修学支援新制度の認定申請についても検討を進める。</p>	3
<p>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p>	
<p>学校生活や就職に支障がないよう毎年4月に健康診断を実施して健康状態を把握している。精神面を除き、現時点では専門医を置いていないが、内容によっては姉妹校の専門教員に依頼することも可能である。また、外部に学校担当医を依頼し、緊急時の対応が図れるよう体制を整えている。</p>	4

<p>・学外活動に対する支援体制は整備されているか</p>	
<p>エール活動、各種コンテストへの参加、東京ゲームショーへの出展および運営を学生達を中心に実施できる様に授業内外で支援している。</p> <p>学外活動の幅が広がってきているため、学生と外部との係わり方や支援体制について、柔軟かつ臨機応変な対応を図る必要がある。</p>	4
<p>・学生の生活環境への支援は行われているか</p>	
<p>遠隔地出身者のための民間宿泊施設と提携し、姉妹校とともに学生寮として提供している。また、本校舎の玄関受付前ホールや1階ラウンジの改装により明るい雰囲気と安心感を作り出し、在学生および入学訴求者、来校企業の方より高評価を得ている。校内には、飲料の自動販売機以外に冷水器や給湯器を設置している。ラウンジに雑誌や漫画コーナーを設置することにより、息抜きできる環境も提供している。</p> <p>こども医療の1号館1階に新ラウンジを設置したことでリラックスできる空間を提供することができている。また、業者と提携し、駐車場にお弁当販売やキッチンカーを配備するなど、生活環境への支援と整備も柔軟に行っている。</p>	4
<p>・保護者と適切に連携しているか</p>	
<p>学生の就職、学習には保護者による支援や理解が重要であるため、各期の成績表を保護者宛に郵送している。また、保護者面談や保護者への電話連絡なども実施している。日常の欠席連絡や問題のありそうな学生の保護者へは常に連絡を取り、密接な関係を保っている。過去に不登校などの問題を抱えていた学生が、入学後に同様のケースとなる事が多いので、保護者との連絡連携や状況報告は特に重要である。</p>	4
<p>・卒業生への支援体制はあるか</p>	
<p>同窓会の開催や就職情報の提供を行っている。必要があれば再就職のための情報を提供している。教務運営に無理のない形での支援を検討しつつ、卒業後の就職先企業での評価や実績などを調査することにより、卒業生との連携や情報収集を実現している。</p>	4

・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	
地域の公民館からの依頼によるコンピュータやロボットの実験教室などの取組を継続して実施している。高校生への進学指導(進学業者依頼)に合わせ、無理のない範囲でキャリア教育・職業教育などへの指導協力を行っている。	3

## (6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・校外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

## ① 課題

[

## ② 今後の改善方策

- ・現実的な場面を想定した避難訓練を計画する。
- ・必要に応じて消防署と連携した訓練を行う。

## ③ 特記事項

[

## (6) 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
<p>情報工学科・情報学科には最新ノートパソコン、ゲーム学科はゲーム開発のための高スペックパソコンをそれぞれ一人一台貸与し学習・研究できる環境を用意している。多様化する学生の研究・学習、興味・関心に合わせ、学生が自主的に自由に研究できる環境を継続して整えていく。</p>	4
・校外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	
<p>就業体験は有益性が高いので推進していきたい。具体的には、事前・事後指導やインターンシップ期間での状況確認を行い、指導強化を図っている。今後は、さらなるインターンシップ先の開拓が必要である。近年、企業よる短期インターンシップが増え、時期を問わず、学生が参加しやすくなってきているため、学校としても内容を反映させたルールの改善、整備を図り、教育体制の確立を目指したい。</p>	4
・防災に対する体制は整備されているか	
<p>消防警報については専門業者と契約し、年2回の検査を行い、消防署への報告も行っている。</p> <p>施設・設備は耐震基準などに照らし合わせた、工事を実施している。災害時の飲料水の確保を行い、キャンパス棟には発電機も設置した。災害に対し、学生ならびに教職員に啓蒙活動の機会を増やすことは効果的と考えている。</p> <p>より現実的な場面を想定した避難訓練を実現するため、必要に応じて消防署と連携した訓練も今後は検討したい。</p>	3

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 (3) 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4) 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1

## ① 課題

- ・的確な学生募集活動により、昨年度以上の出願となったが、定員を満たせるよう、教育内容や募集方法の見直しなどによる努力は今後も必要である。
- ・CG・ゲーム分野の出願が伸び悩んだため、原因を分析して効果的な対策を施す必要がある。
- ・資料請求数に対する女子の入学率が低いため、高める必要がある。

## ② 今後の改善方策

- ・SNSやWeb広告などWeb上での広報活動を積極的に行う。
- ・CG・ゲーム分野の募集強化策として、高校生の反応がよい東京ゲームショウへの出展・参加の様子を、画像を用いて積極的にPRする。
- ・進路選びの早期化に伴い、1、2年次に対するPR活動を積極的に行う。

## ③ 特記事項

- ・情報工学科、デジタルクリエイティブ科を廃止する。

## (7) 学生の受入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	
<p>高校生が進路選択に必要な情報元となる学校案内やホームページなどについて、必要な情報を正しく記載し、正しい進路選択ができるよう配慮している。</p> <p>また、毎月数回のオープンキャンパスを開催して、各分野の担当教員より入学希望者や保護者に対して授業内容や資格取得、就職指導など、自分に合った進路選択ができるよう、具体的な情報提供を行っている。</p> <p>募集担当者と各進学者との良好な関係により、有益な情報収集ができてい。具体的には、Web広告などの新規募集企画が成功し、出願者増に繋がった。</p> <p>しかし、現状は定員に達していないため、教務と連携を図り長期的な募集計画を随時見直ししながら、定員充足に向けた募集活動を行いたい。</p>	3
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
<p>資格取得や就職実績、各種コンテスト入賞などの教育成果があった際は、その都度ホームページで情報を開示している。資料請求者にはその内容を記載したリーフレットなどを適時送付し、伝えている。</p>	4
・ 学納金は妥当なものとなっているか	
<p>他校の学費や諸経費などの学資金情報を見定め、妥当な金額を設定している。諸経費については、無駄を排除し、経済負担の軽減を図っている。</p> <p>なお、入学辞退者や退学者、および学費未納者については、規則に従い適正な清算（返還又は徴収）を行っている。</p>	4

## (8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 (3) 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	(4) 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1

## ①課題

[

## ④ 今後の改善方策

- ・安定した在校生数の確保を図る。
- ・不要と思われる経費の削減を行う。

## ③特記事項

[



## (8) 財務

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

<b>評価指標</b>	
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	
在校生数の増加により、収支は黒字計上を達成できた。今年度はさらに学生数が増えるため、財政基盤は安定の域に入ったといえる。	<b>3</b>
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
予算は各部局が年度前に申請し、経理部門がその妥当性をチェックし、決定している。また、予算の執行は、適正な教育研究活動で行われているので、妥当といえる。	<b>4</b>
・ 財務について会計監査が適正におこなわれているか	
27年度より公認会計士・監査法人に監査を依頼し、外部監査を行っている。常時、学校法人会計に則り税理士指導のもと会計処理をしている。また、複数の職員配置により牽制も保たれている。年度末より2か月以内に決算処理を行い、理事会までに監査を終えている。	<b>4</b>
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	
法第47条の規定による閲覧対象者は、「当該学校法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人」であり、求めに応じて公開している。理事会に提出されるものと同じ書式であり、ホームページ上においても公開している。	<b>4</b>

## (9) 法令などの遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	4 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	4 3 2 1

## ①課題

- ・万が一の個人情報流出に備えて、民間保険会社との契約を検討する必要がある。
- ・教職員全員が個人情報に関して日頃から注意する必要がある。

## ④ 今後の改善方策

- ・個人情報保護に関する保険契約を予定している。

## ③特記事項

[

## (9) 法令などの遵守

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

<b>評価指標</b>	
・法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	
適正に管理している。学則変更などの機会に合わせ、基準の確認も行っている。法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営は総務課が主導となり、重点的に管理しているが、他部門の相互理解が重要と考えている。	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
個人情報を正しく管理するために個人情報管理規程を作成している。個人情報の保護を守りつつ、教育成果の広報活動を行なうためには、マニュアルや研修による教職員の教育が必要である。万が一の個人情報流出に備え、民間保険会社との契約を行う予定である。	3
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
文部科学省生涯学習政策局における学校評価ガイドラインを基準に、年に1度点検評価を実施している。部署毎に、問題点の把握・改善策の検証を実施し、改善の優先度に応じて、役職者を中心とした学校全体での改善を進めている。FD(ファカルティ・デベロップメント)の一環として、全職員にその対応内容を意識させている。	4
・自己評価結果を公開しているか	
ホームページ上に評価結果を公開している。これは、職業実践専門課程運営上の規則でもあるが、事務部門に対しても評価制度を拡大し実施することを検討している。	4

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生ボランティア活動を支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練などを含む）の受託などを積極的に実施しているか	④ 3 2 1

## ①課題

[ 特になし ]

## ②今後の改善方策

[ ]

## ③特記事項

[ ]

## (10) 社会貢献・地域貢献

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	
<p>情報技術の進歩に沿った教育が不可欠であることから、業界との連携、地域との交流は重要である。研究設備を用意し、関連企業との連携を強化している。施設・資金・マンパワーを確保し、無理のない形で学生などの研究と合わせ地域貢献できる仕組みを検討している。</p>	4
・学生ボランティア活動を支援しているか	
<p>社会を広く知ることは重要で、様々な経験ができるような支援体制を整えている。ゼミ科目との連動により参加学生も増えた。具体的な活動の例として、新潟市のパソコン支援を中央公民館で実施している。ゼミ活動を通して、対外的にも学生達を中心に活動できるような指導・支援を継続している。</p>	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練などを含む）の受託などを積極的に実施しているか	
<p>新潟市生涯学習センターの依頼により、ボランティア講座の開設や高校での進路・就職指導講座という形で実施している。学生主体の地域向けの学習講座や当校の教員が説明担当であるものの、学生をサポート要員とした講座などを種々実施している。参加した学生にとっては有益な機会となっている。</p>	4

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・職業実践教育、産学連携、地域連携の強化により新潟高度ならではのカリキュラムの充実を図る

企業協力における実務演習（企業インターンシップ）科目を継続して実施でき、実践的な職業教育が実現できている。学生は学校での基礎・技術教育と企業としての観点や意識の違いを実感できるため、コスト意識や改善意識などが芽生え、就業意識・意欲の変化につながっている。教育連携企業を中心に複数社の協力のもと実務演習を豊富に実施することができた。学生のもつ主観的な考え方や団体・企業がもつビジネス意識とのギャップを認識させると同時に、それを踏まえた授業展開など、内容を都度検討することができた。また、ゲーム開発会社の協力のもと、ゲーム制作に関わる授業や作品評価も継続している。現場を意識した指導内容や商品開発としての目線で講義や評価を行ってもらうことが、学生の技術向上はもとより制作・就業意識向上につながっている。今年度も、新潟市生涯学習センターと協働で市民を対象とした各種パソコン教室を実施できた。プログラミング体験(スクラッチ)講座やエクセルで作る健康日記(表計算)講座など新しく、また実用的な内容での講座であるが、毎回定員を上回る応募があり、学生の意欲と成長につながっている。

- ・学校理念・教育方針を再確認し、学校の新たな魅力作りを進め、質の高い学生を輩出する。

ICT化が急速に進む中、社会環境、生活環境とも大きく変化している。今の時代に即応、対応できる人材の育成が必要であるが、同時に魅力ある学校作りを行い、学校の存在意義、社会貢献を果たしていかなければならない。本校の歴史を踏まえて、初心に戻り、本来ある姿を取り戻し、追求していくことが求められている。

本校が教育理念として掲げていることは、（１）資格取得、（２）自分で学べる能力（自ら学ぶ）、（３）目的に向かって計画・実行できる能力、（４）コミュニケーション能力の向上、（５）先生を超える学生を輩出、の５つである。今年度は（１）及び（４）を重視した。学生間のみならず、教員間におけるコミュニケーションをも強化し、相互に連携した学習環境の確立を目指す。結果、資格取得においては情報処理安全確保支援士試験において合格者を輩出することができた。ゲーム学科では就職活動において作品選考が中心となるため、カリキュラムにおける資格取得のウェイトは少ないが、全員が受験するCGクリエイター検定やマルチメディア検定において、成績優秀校に贈られる協会賞を３年連続で受賞している。このような結果から、学科分野によらず、学習水準の向上、質の高い学生の輩出は立証できている。また、就職面においても、希望就職を可能としており、内外の評価を得ている。しかしながら、今後も教育連携、産学連携を強化し、実務・実践力の向上を目指すとともに、教育力の強化を推進していくつもりである。

・学習環境の充実・強化を図る。

クラウド利用の普及に伴い、クラウドコンテンツ管理・ファイル共有システム BOX サービスの導入を進めた。当初は時間・場所に縛られずに学生個人でも学習が進められる環境の構築ならびに情報共有、クラウド環境の理解を主な目的として導入に至った。その後、新型コロナウイルス感染症の猛威にさらされる中、学習環境を確保する上で、まさに絶好のタイミングで利活用できたと言える。しかしながら、国が進める GIGA スクール構想を鑑み、学園グループ内でも陳腐化したハードウェア・インフラ環境、並びにネットワークリソースを大きく使用するアプリケーションサービス利用の常態化により、ネットワーク環境の改善・再構築が急務であり、準備を進める必要もある。残念ながらインフラ環境の改善・再構築については新型コロナウイルス感染に対し、万全な対応をとれない状況にある。しかしながら、年度を越えて、BOX サービスならびに遠隔会議システムの活用により、遠隔授業の実施は実現できた。これは教職員だけでなく、学生なども新たな IT システムを取り入れることで実践的に学ぶことができ、新たな授業スタイルの構築ならびにこれからの社会システムを想像する上での発想力・企画力につながる事が期待できる。システム環境整備として、5G、高速通信サービス、新世代の情報システムに対処できるハードウェア・インフラ基盤構築を、学園を上げて早急に進めていきたい。